

# 法華経でのみ成仏できる

布教部長 村松潮隆

絵 藤田由也

問ふて云く、天台の釈の中に「菩薩は处处で得入す」と云ふ文は、法華経は但二乗の爲にして菩薩の爲ならず。菩薩は爾前の経の中にして也得道なると見えたり。若し爾らば「未だ眞実を顯さず」も「正直に方便を捨てて」等も、総じて法華経八卷の内皆以て二乗の爲にして、菩薩は一人もあるまじきと意うべきか、如何。

答へて云く、法華経は但二乗の爲にして菩薩の爲ならずと云ふ事は、天台より已前唐土に南三北七と申して、十人の学匠の義なり。天台はその義を破し失せて今は弘まらず。若し菩薩なしと云はば「菩薩是の法を聞いて義網皆已に除く」と云へる、豈に是れ菩薩の得益なしと云はんや。それに尚鈍根の菩薩は二乗とつれ(連)て得益あれども、利根の菩薩は爾前の経にて得益すと云はば「利根、鈍根等しく法雨を雨らす」と説き「一切の菩薩の阿耨多羅三藐三菩提は皆此経に属せり」と説くは何に。此等の文の心は利根にてもあれ鈍根にてもあれ、持戒にてもあれ破戒にてもあれ、貴きもあれ賤くもあれ、一切の菩薩、凡夫、二乗は法華経にて成仏得道なるべしという文なるをや。

【語句の意味】

問ふて云く⇒質問します。疑問を言う。

天台の釈⇒天台大師の解釈。

「菩薩は処処で得入す」⇒天台大師の著『摩訶止

観』の一節。「菩薩は法華経以前の經典のあ

ちこちで成仏している」。

二乗の爲にして菩薩の爲ならず⇒声聞乗と縁覺乗

の爲であつて、菩薩乗の爲ではない。

爾前の経⇒法華経が説かれる以前の お経。

中にしても⇒中においても。

得道なると見えたり⇒悟りを開いたと書いてある。

成仏したと書かれてる。

若し爾らば⇒もし、そうであるならば。

「未だ真実を顕さず」⇒法華経の前に説かれた無

量義経の一節。「未だ真実を説かず」。

「正直に方便を捨てて」⇒妙法蓮華経方便品第二

の一節。「素直に仮の教えを捨てて（ひたす

ら最高の仏道を説く）」。

法華経八卷⇒法華経は二十八の章から成り、八つ

の巻物からできていること。

皆以て二乗の爲にして⇒皆とりもなおさず二乗

のためであつて。

意うべきか⇒理解するべきか。

如何⇒何に。どうだ。どうですか（呼び掛け）。

答へて云く⇒お答えします。回答を言います。

唐土⇒唐の国に。中国に。

南三北七⇒中国の揚子江を境に南に三人、北に七

人、合わせて十人の仏教学者が居たこと。

学匠の義なり⇒仏教学者の説である。

破し失せて⇒論破されて無くなった。

若し菩薩なしと云はば⇒もし法華経は、菩薩に対

する教えでないと言うならば。

「菩薩 是の法を聞いて義網皆己に除く」⇒妙法

蓮華経方便品第二の一節。「菩薩達は、法華

経を聞いて疑いが、総て無くなった」。

豈に⇒なんで。どうして。



得益なしと云はんや || 成仏は無いと云うのであるか。

鈍根・利根 || 能力が劣る劣等の人・能力の優れた優秀な人。

二乗とつれ(連)て || 声聞乗 縁覚乗と共に。

「利根、鈍根 等しく法雨を雨らす」 || 妙法蓮華経薬草喻品第五の一節。

「優・劣両者 平等に同じ教えをそそぐ」。

「一切の菩薩の阿耨多羅三藐三菩提は皆此経に属せり」 || 妙法蓮華経法師品第十の一節。「総ての菩薩が無上の悟りを得たのは、皆この法華経による」。

にてもあれ || であれ。

持戒・破戒 || 戒律を固く守る・戒律を破る。

文なるをやニ文章であるものを。「をや」は強調。

【現代語にしてみる】

質問いたします。天台大師の解釈文に「菩薩は、法華経以前の經典の、あちこちで悟りを開いている」と言われています。「菩薩は、法華経以前のお経でも成仏できたのですから法華経は声聞乘・縁覺乘の人のために説いたのであって、菩薩乘の人のために説いたのではない」と言えます。もし、そうであるならば無量義經の「未だ真実を説かず」も方便品第二の「素直に仮の教えを捨てて、ひたすら最高の仏道を説く」の文章も、又そればかりか法華経八卷の内容すべては声聞乘・縁覺乘のためであって菩薩乘の人には関係ないと理解すべきではないでしょうか。どうでしょう。

お答えします。「法華経は但ただ声聞乘・縁覺乘のためであって菩薩乘のためではない」と言う理論は天台大師以前、中国の南三北七なんさんほくしちと言われた仏教学者が主張した論説です。天台大師が、その論説を

論破されたので主張する者は無くなり、今は広まっていけないはずですが。もし「法華経は菩薩乘の人のために説かれたのではない」と言うのであれば方便品第二に「菩薩はこの法華経を聞いて疑いが、総て無くなった」と言っているのに「法華経が菩薩成仏の為ではない」などと、どうして言えますでしょうか。それに能力が劣っている菩薩は、声聞乘・縁覺乘と共に法華経で成仏するけれども、能力が優れている菩薩は、爾前にぜんの経で成仏したと言うのであれば葉草喩品第五で「優秀な人にも・劣等な人にも・平等に教えをそそぐ」と言い、法師品第十で「総ての菩薩が無上の悟りを得たのは、皆この法華経による」と述べられているのはどう言う事でしょう。葉草喩品や法師品の真の意味は、優れた人・劣る人・戒律を守る者・破る者・貴人・下賤げせん・菩薩・凡夫ぼんぷ・二乗、総ては法華経によって成仏すると言うことなのですよ。

— 続く —